寅さん歩　その 25
谷端川の流れを歩くー１

平野　武宏

前回の「橋めぐりお散歩」は下を鉄道が走る跨線橋でした。豊島区には区内を南北に広く長い流域を持った**「谷端川（やばたがわ）」**があり、何と寅次郎の住むＪＲ大塚駅の近くも流れていたことを知りました。写真下の図は豊島区内の流れです。

「谷端川」は千川上水の長崎分水を源に豊島区、板橋区、北区、文京区を流れ、神田川に合流しています。現在はほぼすべての区間が暗渠の下水道幹線になっています。豊島区文化財マップや豊島区立郷土資料館友の会の資料を参考にかつての流れを辿りながら歩いてみます。**第 1 回は水源から西武池袋線　椎名町駅まで歩きます。写真右上は千川上水跡の千川親水公園です。**

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

［千川上水跡］ 豊島区千早町　最寄駅　有楽町線／副都心線　千川駅

人流の多い池袋駅を経由するので新型コロナ感染拡大予防策として休日の早朝を選び、出発しました。千川駅の地上に出て、要町 3 丁目交差点手前（写真下左）を左折、直進すると左手に**「千川上水跡」**の説明板がありました。

写真下右は奥の方から流れてくる千川上水跡で暗渠になっています。

説明板には「かつてここを流れていた千川上水は、江戸六上水の一つで、元禄9 年（1696 年）に幕府の命により河村端賢が設計したといわれ、千川太兵衛・徳兵衛の請負によって造られたものである。全長は 7 里 6 町 39 間（約 28ｋｍ）に及び、保谷村（今の保谷市）で玉川上水から分流し、石神井村、下練馬村、長崎村などを経て、板橋町、巣鴨町より下谷、浅草に達していた。この上水は湯島聖堂、上野東叡山、小石川白山御殿、浅草寺御殿などに給水することを目的とし、余水は流域の武家、寺社、町屋の飲料水として使われた。
宝永 4 年（1707 年）には、流域の村々の嘆願により、農業用水としての利用が認められるようになり、区域では長崎、池袋、巣鴨の各村がその恩恵を受けた。
千川上水は、享保 7 年（1722 年）に江戸への給水が中止され、安政 8 年（1779 年）に再開されたが、天明 6 年（1786 年）には上水としての利用は廃止された。
その間、流域の灌漑用水としての利用は続き、明治期以降は工場の産業用水としても利用された。また、上水の堤には千数百本の桜が植えられ、花見の名所としてにぎわっていたが、戦後の都市化の進行とともに、区内では昭和 2 年にほとんどが伐採され、流域の景観は一変した。平成元年（1989 年）上水跡には区立千川親水公園が開設され近隣住民の憩いの場となっている」と記載。
流れは千川上水跡を右折し、要町３丁目交差点（写真上左）に向かっています。
写真下左のように水路は保存され、路上には下水道のマンホールがありました。
千川上水は寅さん歩 365　半径 30 分以内―13 庚申塚通りをご覧ください。

［千川長崎分水］

写真下左は奥からの千川上水の流れです。**「千川長崎分水」は要町通りの要町３丁目交差点で分岐して右折、**千川駅（写真下右）方面に向かいます。本流は要町通りを横断し交差点を直進します。

分水の流れは千川駅出口 3 の脇右側の道(写真下左)を入ります。直進して進むと左側に粟島神社が見えてきます。

［粟島神社］ 豊島区要町２－14－4

資料によると**谷端川のもとの源は「粟島神社の分水池（弁天池）」**とのことです。

写真上左は粟島神社入り口、右は境内の分水池（弁天池）を渡った本殿です。

分水池（弁天池）は湧水とのこと（写真上）。弁天池では農作祈願の雨乞いが行われ、流域の各所に大根などの野菜の洗い場や水車があり、夏は蛍が飛び交い、子供たちは水泳や蜆・鮒・鯉・鰻・ドジョウなどを採って遊んだといいます。
元禄９年（1696 年）に千川上水とつなげられてから、谷端川は千川上水の分水になりました。これは奉行所に願いを出し、水料を収めることを条件に千川上水から田用水（農業用水）を引き込んだもので、水不足に悩んでいた沿岸の長崎村、池袋村の田畑をうるおしました。

［つつじが丘アトリエ村跡］ 豊島区千早 2－30

写真上左は粟島神社前からの川の流れです。右側に「つつじが丘アトリエ村跡」（写真上右）があり、植え込みの中に見逃しそうな案内表示がありました。
大正の終わりから第二次世界大戦の終わり頃に、池袋の西に当たるこの一帯にいくつかの**アトリエ村（アトリエ付きの借家）**が存在しました。多くの芸術家が暮らし芸術活動の拠点として、パリに因んで池袋モンパルナスと呼ばれました。ここは昭和 13 年（1938 年）に 10 棟建てられ、道路沿いにつつじが植えられていたので、「つつじが丘アトリエ村」と呼ばれました。

川の流れは直進、サンロード商店街から西武池袋線の線路（写真下左）に突き当たります。サンロード商店街のある長崎 1 丁目はあの「帝銀事件」現場の銀行があった所です。「帝銀事件」とは昭和 23 年（1948 年）1 月 26 日帝国銀行（現在の三井住友銀行）椎名町支店で発生した銀行強盗殺人事件（12 名毒殺）で、犯人として逮捕された人は裁判で死刑確定後も無実を訴え、獄中死しています。

川は踏切（写真上左）を直進しますが、今回はここまでとします。
椎名町駅（写真上右）は西武池袋線の駅（各駅停車で池袋駅の次の駅）で駅北口前には古い神社とお寺があります。由緒ある史跡なので立ち寄りました。

［長崎神社］　豊島区長崎 1－9－4

写真上左は長崎神社入口、写真上右は本殿です。創建年代は不詳ですが、**武州豊島郡長崎村（今回歩いてきた千早地区、千川地区、要町地区、長崎地区、次回に歩く目白 4・5 丁目、西池袋 4・5 丁目、池袋 3 丁目一部）の鎮守として信仰を集めました。**いずれも谷端川流域です。祭神を十羅刹女（じゅうらせつにょ）としたため江戸時代中期には十羅刹女社と称されました。十羅刹女とは仏教で法華経を守護する 10 人の女性鬼神と知りました。

明治の神仏分離令で埼玉県の氷川神社から分霊を勧請、須佐之男命を祭祀して氷川神社と改称、その後、長崎神社と改称しています。本殿は嘉永 2 年（1849 年）に建立とのことです。境内には椎名町停車場開設記念碑、日露戦役記念碑が建っています。5 月の第 2 日曜日には、元禄年間(1688～1704 年）に始まると伝わる長崎獅子舞（豊島区民俗文化財）が奉納されます。

［金剛院］　豊島区長崎 1－9－2

明治元年（1972 年）の神仏分離令まで、**長崎神社の別当寺でした。**長崎神社を出て、すぐ隣は別の建物がありますが、金剛院山門を入ると奥では長崎神社と隣接しています。聖弁和尚によって大永 2 年（1522 年）に建立された真言宗豊山派の寺院で正式には「蓮華山金剛院佛性寺」といいます。山門手前には長崎不動尊と寛政 8 年（1796 年）の道標地蔵尊（写真下左）があります。写真下右は安永 9 年（1780 年）の薬医門様式の金剛院山門(赤門)です。平成 6 年（1994 年）豊島区指定有形文化財になりました。

写真左は本殿です。安政年間(1854 年～1860 年）には寺子屋が開設され、長崎地区の庶民教育の拠点となったほか、明治 34 年（1901 年）には、寺内に長崎村役場が置かれたとのことです。
山門右手の境内には赤門テラス「お寺カフェなゆた」があり、寅次郎オープン時にランチを食べた記憶があります。

練馬区との区境近くから流れ始めた「谷端川」は新宿区方面手前まで南下、西武池袋線　椎名町駅まで来ました。

豊島区立郷土資料館友の会の資料には「古地図（明治 44 年）によると水源から椎名町駅付近までに 6 つ位の橋があったようですが、現在は下水道化され、暗渠の地上部は公道となっているので新しい住民の多くは川のあったことすら知らなくなっています。もっとも川幅も１ｍから 2m弱位で橋名もなく、農家が田畑に往来するための個人の橋であったからと思われます。以降の流域では地上部が公園や緑道として利用され、記録に残された、かつての橋のモニュメントが再現されています」と記載。

次回は西武池袋線を渡り、椎名町駅南側を迂回し、板橋区境まで北上します。今は緑道となっている谷端川の流れの上を歩きます。お楽しみに！

［バーチャルウォーク途中経過］

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがＦＷＡホームページ「ＹＲ・四季の道」に掲載されています。　寅次郎、「日光道中二十一次」を終え、宇都宮に戻り、バーチャルウォーク「奥州街道を竜飛岬まで」に挑戦です。「奥州街道」の日本橋から宇都宮までは「日光街道（道中)」と共用なので宇都宮を出発点としました。2020 年 12 月 23 日栃木県宇都宮市を出立、2021 年６月 28 日、青森県三戸宿（江戸から 643km）に到着しました。

新型コロナウイルス感染拡大の終息にはまだまだ時間がかかりそうです。
運動不足にならないように自宅近くにマイお散歩コースを見つけ、その距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。ＦＷＡのＨＰ「ＹＲ・四季の道」には「ひとりで歩くコーナー」があり、コースが紹介されています。マイお散歩や一人歩きでの距離を累計して進む「バーチャルコース」が多く掲載されていますのでご利用ください。
歩く際は密閉・密集・密接の密にならないようにご注意ください！

平野　寅次郎　拝